# 考えウシ

第六十二回　『鬼滅の刃』と戦う理由

## ウマとシカだから脱線できた

弦楽器イルカ⇔友人

# 目次

第六十二回　『鬼滅の刃』と戦う理由〜**U** から **G** へ〜 . . . . . 1
第六十二回　『鬼滅の刃』と戦う理由〜**G** から **U** へ〜 . . . . . 3

# 第六十二回　『鬼滅の刃』と戦う理由～U から G へ～

メールで情報ありがとう。

中国ロシアを中心とした非米の経済圏の話は面白かった。

見ている世界が違うので、視野が広がった感じがした。でも、色々と信じられないし、自分としては間違ってると感じた。根拠を持って論理的に言えないけど。

たとえば通貨は世界で繋がっているし、さらにはビットコインのような世界共通通貨がある中で、ドルと切り離された経済圏ってできるのかな？ その経済圏ならルーブルは紙屑にならないのか？ そこまでは言っていないか。総じて面白い観点だけど、自分には信じられない内容だった。

東側の世界では、習近平は最大の勝者ってことになるかな。まず疑問なのは経済圏を一緒に作るほど中国とロシアは経済的に仲良かったかな？ ウクライナは中国の一帯一路に入ってるようだが、その辺りはどうなってるんだろう。中国としては欧米側に入るくらいならロシアに攻め込まれたほうがよかったのか。あと経済的には中国とロシアに格差がありすぎて、本当に協力体制があるのかイメージできない。

欧米がウクライナの NATO 加盟をちらつかせてロシアを挑発したのは間違いないだろうけど、戦争させるところまで計算通りなのかね。だとしたら、欧米の狙いは何だろうか。俺が単純すぎるのかもしれないけど、欧米の狙いはウクライナの NATO 加入であり、ロシアがどこまで怒るかわからんからじわじわやっていたらブチ切れられたのが今回の真相であり、それ以上の深みはない気がする。

戦争で言えば、ロシアはこのあと本気を出してくるってことなのか。でもロシアの本気って何だろうか。無差別爆撃なのだろうか？ あんなに士気が高いキエフを地上部隊が制圧できるのか？ 今回、ロシアがあまりにも弱すぎたので、何か裏があるのではないかと疑う気持ちはわかるが、実は裏はないと言うのが真相な気がする。２日で制圧しようとしていたのは確かなんじゃないかな？ なので、これがロシアの実力のでこの後もロシアはウクライナを制圧できないし、戦争が続けば国内経済が崩壊するのではないかと思う。あと１週間もすれば真相が見えてくるんでないかな？ プーチンにとっては狙い通りではなく、計算違いであり、一番勘違いしたのは、自国の軍隊のモチベーションであったと。

そうだとしたら、中国にとっては良いシミュレーションになった。台湾を武力で奪うのは無理であるとわかっただろう。

u.png

# 第六十二回　『鬼滅の刃』と戦う理由～G から U へ～

メールでは率直に返信したけど、ウマシカではちょっとぼやかすね。

言論の自由とネットの広がりで、多種多様な意見が出るようになったのは良いことだと思う。組織の統一見解ではなくて、個人がそれぞれの考えで少しずつ違うことを言うのが、最終的には平和につながっていくと俺は思ってる。そういう意味では確かに、東側の体制には賛同しかねるけど。

米はかなり早くに大使館から退避して、更に派兵しないと宣言してるから、米が露をおびき出したとしても不思議はないって意見は、いろんな人から結構出てる。

米は正確な戦況分析を出すとか評価されてるけど、２日で首都制圧とか、５日以内に首都陥落とか、実際間違ってたり、烏にとっては出されたくない情報でもあるよね？

米が烏大統領に退避勧告したのも、もしかして早々に降伏してほしいの？ って率直に感じたよ。だとしたらなぜだろう？

烏は EU にも NATO にも入れない、派兵もされない、飛行禁止区域設定もされない。武器と金その他はもらえるけど、烏側から不満も出てる。

ここで意図的に脱線するけど、『鬼滅～』って、『寄生獣』とか過去ジャンプ漫画のいいとこどりみたいな作品だけど、明らかに他と違うなと思ってて。

悟空に代表される「戦いが生きがい」じゃなくて、敵味方ともにやむにやまれぬ事情で戦わざるをえないって部分が強く貫かれてる。女性作家なのもあってラストは『この世界の片隅に』『夕凪の街桜の国』のテイストにすごい近くて驚いた。

少年マンガの多くはバトル漫画ってくくられても仕方ないけど、『寄生獣』はバトル漫画と呼ばれない。同様に『鬼滅～』も、女性作家が少年誌と青年誌の隙間をつないだ作品として、バトル漫画の枠を超えて幅広く支持されたんだと思う。

いちいち現実と創作をこじつけすぎるのは良くないと思うけど、プロパガンダ次第で、「戦いたくて戦う人」のように見せるか、「やむにやまれずに戦う人」のように見せるかで、人々の共感の量がものすごく変化することを改めて感じた。前者は自己責任、後者は支援の対象になる。

もう一つ脱線するけど、今は自動翻訳で海外のニュースサイトも比較的確認しやすい。
烏側の２日報道だと「民間人２０００人以上死亡」、国連の発表だと１日夜まで「犠牲者２２７人で他の多くの死傷者が確認を保留」ってあった。
公平に考えるなら、数日前の死亡者数は２２７人～２０００人の間のどこかという可能性が考えられるけど、これも正確かはわからない。
すべての事柄でこういう差異があることを認識して、不確かな情報で安易に戦況を語らないのがウマシカにとって重要なんじゃないかと俺は思う。
自分でソースを確認して、それらの差異のどこかにある事実に対して、今日の自分に何ができるのか、文化的に考えるのがウマシ考だろう。
誰の手垢にまみれているか自覚もなしに得たニュースで、反射的に発言するのは飛んで火に入るムシ考の群にまかせておけばいい。

西側の情報通りなら、人道を重視した未来が待ってるのかもしれない。
だとしたら、この国も現状維持だし、極端な動きはむしろ西側に警戒されるだろう。
一方、東側の情報通りなら、西側が世界の警察をやめて衰退していく中、代わりに力を付けてきた東側が新しい世界基軸を作って、拮抗した二大勢力が世界を安定に導くのかもしれない。BRICs 脱ドル化のニュースもあるけど、確実なのは今回の制裁に参加しなかった国は急速に結束を固めざるをえない状況にあるってことだろう。元を中心とした取引に移行せざるをえなければ、本気でやるでしょう。東側の実力がもうすぐ可視化できる。
そしてもし東西の二大勢力が真に拮抗する時代が来たら、この国は東側に吸収される可能性も高い。多くの紛争地帯がされたように、西側から支援されて敵対勢力と強気な交渉をしていたら、気づくと後ろ盾全部外されてるって未来も考えられる。この国はエネルギーと資源がないから、後ろ盾をなくしたら何もできなくなるし、核も原発も付け焼刃にしかならないだろう。

さらに脱線だけど、山田芳裕『望郷太郎』がいいって話したっけ？ 多作さとジャンルの幅広さと面白さで手塚に並ぶ漫画家だと思うんだけど、荒廃した地球でサバイバルしながら、文明と経済の成り立ちについて考えさせられる、稀有な漫画だと思う。『大正野郎』からぞっこんだから、だいたい全部読んでるんだけど。
今、特に考えさせられるのは、小さな集落同士の土地争いならシンプルかって言うとそうでもなくて、内通者や裏切り者が出れば力だけでは制圧できない。更に集落が大きくなれば人脈や資源や歴史や様々な要素が絡んできて、結局誰が何と戦っているのかもわからなくなってくる。
世界がどうではなくて、自分にとって何が大切なのか、後悔のないように優先順位を決めておくことが改めて重要だと思ったよ。

最後に本当の脱線だけど、『騎士団長殺し』も『一人称単数』も読んではいる。

登場人物がセレブすぎて眩しすぎるきらいがあるけど、『騎士団長～』の扉の向こうに誰かがいる描写が秀逸で、あれ読むだけでも価値あるんじゃないかね。

上巻がカフカ『城』くらい苦痛だったけど、下巻はスラスラ読めた。あれわざと『城』化して、映え目的で上下巻一気に買ったミーハー層に嫌がらせしてるんだろうって勝手に読解した。

読みたい以外の目的で読まれる作家は、良い面と悪い面あるよね。読まれてるかなんて知ったこっちゃないスタンスのウマシカが言うなって思うけど。

今回はこんな感じ。

どうかな？

考えるウマシカ～第六十二回 『鬼滅の刃』と戦う理由～

著　　弦楽器イルカ

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社